

物編ノ行流今只

- リリヤン
- スピン
- 最上毛糸
- 各色

澤山入荷シ
テフリマス
平町四ツルヤ
ツルヤ
洋品店
電一四〇

十月二十二日替り
高松プロダクション超特作
品 劍優草間實、衣笠英子
共演 連続大時代劇
月朧ろ天明大難劍前篇
里見明、藤間林太郎、歌
川八重子、澤蘭子共演
花柳心(ノ)唄(ノ)全巻
マキノ東社特作
マキノ輝子、大谷友三郎
主演
連続大時代劇 洒落狂女 後篇
帝キネ小坂派特作
尾上紋十郎、小島陽三、
千草香子、小坂照子共演
連続大時代劇 孔雀の光
代探偵劇 最終篇

現金月賦販売
三ツ目
平町ミシン會社支店
ハガキ
申込メ

冬服新荷着
◇新しい品新しい型冬服
が澤山揃へました
◇値段は昨年二割乃至一割
半安の下記の通りです

脊廣三ツ組

- ◇紺黒サージ 1.78圓ヨリ
- 同 2.67圓マテ
- ◇メルトン類 1.5圓位ヨリ
- 同 2.23圓マテ
- ◇スコツナ類 2.34圓位

詰襟上下組

- ◇紺黒サージ 1.1圓位ヨリ
- 同 2.0圓位マテ
- ◇メルトンラッシュ類 14.5圓位

其他種々冬物取揃へました
平町なかや洋服店 電話二〇三

町田村
富田眼科醫院

横森博士の推奨せる
養命酒
其偉効眞に神の如く
定價 一圓五十錢、二圓
平町五丁目角
山野邊藥局

今般都合ニ依り本月十五日限り平驛前當
分院ヲ廢院仕り従前通り本院ニ於テ診療
ニ從事仕り候間此段謹告仕り候
十月廿二日
平町紺屋町
新妻眼科醫院

十八日より五日間
移轉披露の爲特賣致します
◎友仙モス尺十錢より...◎友仙モス着尺四圓三十錢
◎新大島壹圓五拾錢より...◎ニコノ各種
尚ほ友仙一切壹圓均一物百切限り但し御一人一切
外に格安品豊富に取揃へました
是非御来店を願上ます
平町四丁目
吉 喜好屋吳服店

平町紺屋町(縣社通り)
美味イウキ食堂
オの部電話四六〇番

外科 門 專
入院應需
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

事務所新築紀念
十坪乃至二十坪位ノ小住宅
格安請負致シマス
外國材購入及ビ建築ニ關スル事柄ハ何ニ
ヨラズ御遠慮ナク相談下サイ
平町田町五七(電話六二番)
丸山喜一郎

十月十日診療開始
院長兼部長 菊地泰助
副部長 千葉醫學士松野松治
外科 皮膚泌尿科 部長醫學士野田宏
顧問醫學博士松永琢磨
衛生試驗所(理化學的検査) 主任醫學博士菊地泰助
技師 和田宇市
藥劑師 吉本孝平
藥劑主 賀澤忠治
産婦人科耳鼻咽喉科は追テ開始
平町 城 共濟病院 電話六四一
診察時間午前九時より午後二時迄
急患は此限りにあらず

清釀造元
酒 鶴仙
石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四二番

教育玩具
毛糸 諸糸
書籍 文具
花カ ルタ
トラン プ
ハ一モニカ
學校用品
食料 玩具

商號
屋 間 卸
店 商 下 森
目 丁 一 町 平

平町紺屋町(縣社通り)
美味イウキ食堂
オの部電話四六〇番

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番



刊夕日三十二月十

常警毎日新聞
林野之火災(五)
無會議員 井上茂作
尙ほ一步進めて論すれば此
問題の大策大方針が確立す
る否とは國民精神の作興
に非常なる關係を有するも
のであつて産業も教育も此
問題より離るゝこと出来な
い筈であると思惟するから
である、併し對外的に關係
することは別として内的方
面のことを申しますれば狹
隘なる我國の國土を經濟的
に利用し寸地も苟もせざる
觀念を以て開墾其他色々の
方法もありませうが先づ比
較的地域の多き山野に植林

を行ふことが急務中の急な
りと考へる、私は天を摩す
る樹木の密集したる森林に
接觸したるときの氣分とか
感想とか申しませうか大自
然は大なる藝術であると呼
びたいようになる、之れと
反對に立木のなき荒れ果た
山なぞが汽車の窓からでも
見ゆるといやな不愉快な感
じがするのであります、恐
らくは私のみではあるま
いと思ふ、愛林思想と申し
ますことは獨り經濟的打算
的方面よりのみでないので
あつて植林思想と謂ふこと
は永遠的であつて剛健なる
氣風を培養することゝもな
る、又美術的であるとも云

へ得る、彼の瑞西の國の風
景は世界的公園であると稱
せられ觀光各國より入込
み其費用非常に多く同國の
經濟を左右する位であると
承知します。我國に於ても
詩人は山紫水明とか山川風
物とか申しまして風光を賞
美したる文墨が澤山ある、
山高きが故に貴とせす木
ある故に貴とすと云ふこ
とも畢竟するに愛林思想に
外ならぬ、山に木なきは河
に水なきと等しく何とな
物足らぬ寂莫を感じるもの
である、殊に我々日本人は
林産物と離れて生活するこ
とは出来得ないのである
(つづく)

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常警毎日印刷所

定部金貳錢 廣五號十二休(日曜大祭) 廣島縣石城郡平町長橋町三五
一ヶ月刊 料五字詰一行 日刊(祝日ノ翌) 發行所 常警毎日新聞社
郵税五厘 料五十錢 日刊(祝日ノ翌) 電話六三〇番

其後の経過を案じ 遭難現場に急行

憂色漂ふ吉田氏一家
旅装の喜代次氏語る

南會津郡檜枝村六千九百尺の高峰駒ヶ嶽に於て遭難したる早稻田大學高等學院生徒東京市外灘の川町吉野玉雄(三)富山縣上洲町西山健吾(三)並に石城郡平町白銀町吉田素(三)の三名中唯一の生存者である吉田素君その後の消息を聞くべく二十日朝白銀町の實家を訪れると同日午前九時二十五分發の磐越線下り列車にて遭難現場に出發の旅装中であつた同人義兄喜代次氏は

平 商工見學通信

——第一通信——

昨夜の九時に東京驛を後にした汽車は暗を縫ふて西へ行く。窓を縫ふて、殆ど一列車を占領した。一同は唱歌を歌ふものもある。それは和に花を咲かせるもの等。一夜位は徹夜は何のそのと言ふ勢を示し眠れぬもの越よとばかりに騒ぎ立てた。この様なのが、若いもの、特質である。若しもの、箱根の山も眼前に展露された。箱根八里は馬でも越すと越すと越ると越ると。説明するものもあつた。騒いでゐる内に、静岡も過ぎ秋霞の中に濱松が見え、それを點綴して居る様子は旅の目を慰めるには充分であつた。岡崎邊からは夜は全く明け離れたか、熱田に着いたのは午前六時半であつた。直ちに熱田神社に向ふ行く事、二丁許にして横門なる春殿門に止る。神前に詣りし老杉森々として繁茂し御門に白布垂れて神宮愈々神々し、熱田神社は官弊大社にして草薙劍をいつさまつた。日本武尊を祀り奉ると聞く電車にし名古屋に向ふ。電車に下り徒歩にて西に二三丁行き北に折る。暫くして名古屋に着いた。金の鯉は成を天空に漲つて一人歴史上の追憶

選挙権ある鮮人の大半は石城郡居住

満廿五歳以上の男子で
一ヶ年以上の定住者

を強からしめた、商業にも工業にも素晴らしい発展振を見てゐる、名古屋市内に名残を借んで宇治山田に向ふ、午後一時四十分山田にて下車し、一同列を正して外宮に詣り、外宮即ち豊受大神を祀り奉るところなり、左手に鯉多き包玉の古泡あり、老杉神座を嚴に直ちに内宮に向ふ清くすんだ五十鈴川の流に身を清め、天を磨する許の老杉は幾本となく生ひ立ちてこの神境をいよく神秘化してゐる、路の極まる所神前なり、詣れば萬の事は、忽ち忘れ崇高無限の靈威

家出女判明 好間で酌婦様き

神奈川縣橋本郡大妻村長谷川清吉長女玉子(三)は内縁の夫熊次郎との間に二兒をもうけたが浮氣者で昨年未遊藝人に誘はれ平地方に潜伏してゐることを探知した親元では平署に捜索願を提出したので同署で捜索の結果好間村北町田飲食店齊藤せい方に前借四百圓で酌婦となつてゐることを判明したので平署では目下誘拐犯人の捜索中である

放火の疑ひ 内郷の火事に 損害其他取調中

石城郡内郷村大字内町字水出三三鈴木辰次郎から廿三日午前一時半頃發火し隣家なる鈴木庄太郎同義雄方に延焼し三戸四棟を焼失し同三時十五分鎮火したが原因損害目下取調中なるも放火の噂さが高い



欄庭家

来るべき議會の解散は最早避け難きものとして論議されるに至つた普通選法はこの解散による總選挙から實施されるのだが選挙権行使者は資格者を除く満二十五歳以上の男子一ヶ年以上定住といふ法規であるからその行使範圍の擴大も豫想外に上り從來認められなかつた内地在住の朝鮮人も立派に

茄子の甘酒漬

今出盛りの木もぎり茄子をおいしく漬けたものであります。玄米一升五合に對し麴一升、鹽六合ぐらひの分量で混ぜ合せた中へ、木もぎり茄子を約二升ぐらひ漬けておきます。玄米は水洗ひして普通の御飯に炊き上げます。コウヂをよくもみほぐして先の御飯に混ぜ合せます。冷えないうちに瓶の中に入れ、蓋をして冷めないやうにいたしておきます。さうすれば

國民大會委員

としてある、會衆は全く廣場を埋めた、開會を促す拍手は萬雷の如く轟く午後一時廣場の西端小山を背にして設へられた

演壇の

邊りに盛んに爆竹の音起ると見れば壇上には古武士の面影ある國龍會長内田良平氏が立つて居る、擴聲器は氏の肺腑を貫く様な言々を一つ一語も洩さず聴衆に傳へた、此時氣が付いたのであるがアレ程廣い草原であるのに音聲に一種の反響がある、不思議と思つてよく見れば、

四倉町山林會

四倉町山林會總會は廿二日午前十時から町役場に開き十六年度事業其の他につき協議し午後からは町有林で茸狩を舉行し盛會裡に散會した

平町人事

▲出生
△五丁目一〇野澤欽一郎氏二男克

東京第一 現内閣問責の 國民大會に臨んで

川崎 文治

十九日は朴烈問題に激して起つた政友會や政友本黨其他各種団体聯合の現内閣問責國民大會が芝公園に開催される爲め、講義は休み、僕も民衆運動の實況を目標とする好機會とばかり、午前十時政友

菊花の

徽章を付けて一同に加はる、電車通りを芝公園に向へば空には飛行機が飛んで今日の國民大會を市民に知らすべく五彩の宣傳ビラを花と散らす、愈よ會場に到着、其處には

本部に 至る、既に三多摩壯士や赤心團それに國粹會等の幹部や院外團が續々押し掛け来り活氣は横溢して居る、望月總務其他

樹間に

蜂の巢の様